

Insupike

スピーカーなどのオーディオ機器の振動対策を行い、音質を向上するためのスパイク型インシュレーターです。スピーカーと床との間に挿入するなど、振動を制御したい音響機器の下に挿入して使用します。

■ 二種類の使用方法

Insupike は、異なる二通りの振動対策を行うことができます（特許出願中）。

一つは「メカニカルアース」としての使い方で、もう一つは「アイソレーター」としての使い方です。

Insupike を使用する場合は、どちらの方法により振動対策を行うかを決め、それぞれに適した方法で使用します。

(A) メカニカルアース

スピーカーやオーディオ機器からの振動を下部に逃がします。

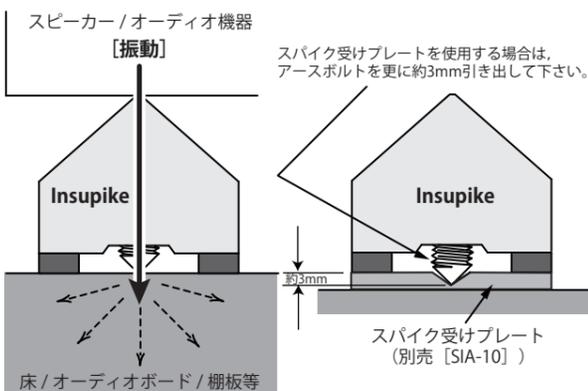
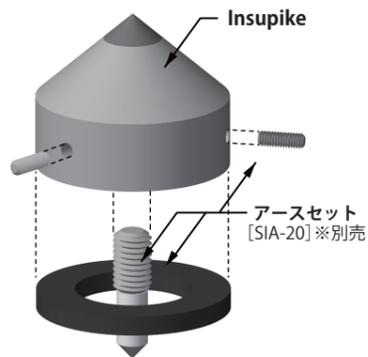
スピーカーやオーディオ機器からの不要な振動が効率よく下部の床やオーディオボードなどに伝達され処理されるため、インシュレータだけでは得られないほど大きな制振効果が得られます。

この場合、Insupike は、音響機器と床などを振動的に接続する接着剤のような役割となります。

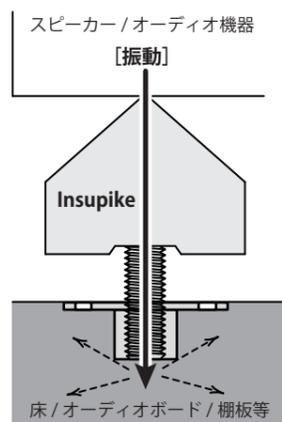
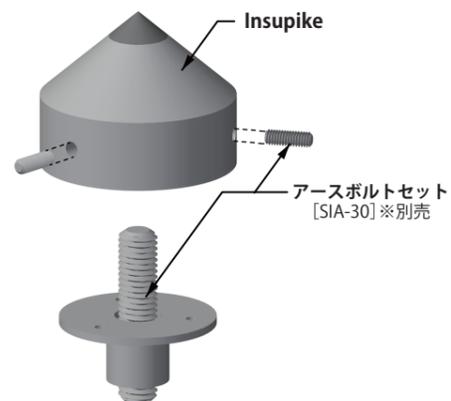
そのため、オーディオ機器は床などの質量が加わったかのようなどっしりとした安定感が得られます。

この使用方法では、スパイクの下部に設置してある床やオーディオボードで振動の処理を行うため、それらが柔らかい、良く振動する、良く鳴るといった素材の場合は、逆に不要な振動を助長してしまう恐れがあります。そのような環境でご使用の場合は、(B)「アイソレーター」での使用方法をお勧め致します。

(A-1) メカニカルアースとしての使用例その1
別売のアースセット [SIA-20] と組み合わせて、直置型のメカニカルアース設置を実現します。



(A-2) メカニカルアースとしての使用例その2
別売のアースボルトセット [SIA-30] と組み合わせて、組込のメカニカルアース設置を実現します。



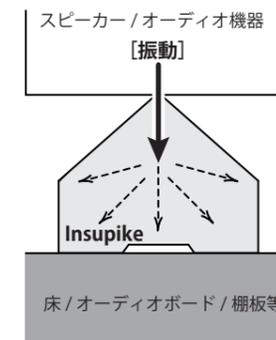
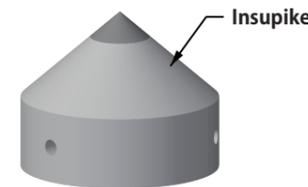
- Insupike をメカニカルアースとして使用するためには、別売のオプションパーツが必要です。
- 固い床や重厚なオーディオボードにオーディオ機器を設置している場合は、メカニカルアースとしての使用がお勧めです。

(B) アイソレーター

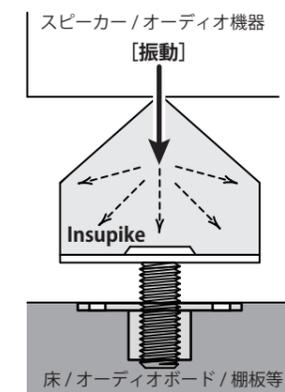
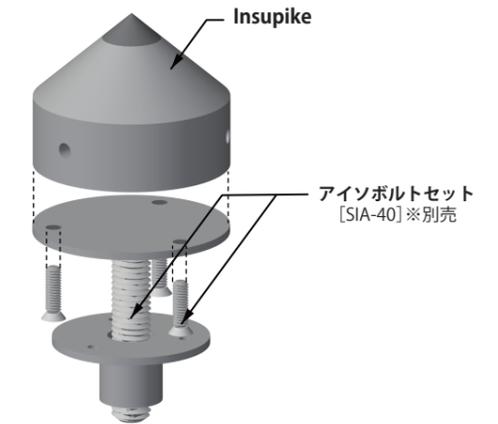
スピーカーや音響機器からの振動を Insupike 内部で処理します。

スピーカーやオーディオ機器が、振動しやすく鳴りやすい床や棚に設置している場合に、それらへの振動の伝達を抑制します。この場合、Insupike は、音響機器と床などを振動的に絶縁する役割となります。

(B-1) アイソレーターとしての使用例その1
Insupike 単体を直置きすれば
アイソレーターとして機能します。



(B-2) アイソレーターとしての使用例その2
別売のアイソボルトセット [SIA-40] を使用すると、
アイソレーター機能を維持した状態でボルトを接続できます。



■ 二種類の素材

Insupike は、振動処理材料の違いにより二種類のタイプを選んで頂くことができます。

使用環境に応じて適宜お選び下さい。

- SI-505A ソフトタイプ 音のこもりを取り払い、ナチュラルなサウンドに仕上げます。
- SI-507A ハードタイプ SI-505A よりもさらにすっきりとした音に仕上げます。

(※音の印象は、音響機器の種類、設置環境、聴取者の嗜好により変化します)

オーディオの最適な振動処理の方法は、環境によって異なります。

Insupike は、「二種類の使用方法 × 二種類の素材」と「豊富なオプションパーツ」により幅広い環境に適応可能です。

Insupike は、決まった音の押し売りはしません。

皆様にとって最適な音を得られるよう、環境や嗜好に合わせて Insupike をチューニングして下さい。

■ スパイク受けプレート ([SIA-10] 別売)

Insupike の能力を最大限に発揮するためには、Insupike の先端部分が直接オーディオ機器に触れるように設置することをお勧めします。但し、その場合、オーディオ機器によっては、Insupike の先端部で傷がついてしまうものもあります。オーディオ機器に傷がつかないようにガードするためには、別途 Insupike 専用のスパイク受けプレート [SIA-10] をご使用下さい。

